

# 『石垣・八重山ビジターセンター(仮称)』の考え方

Green&Clean

# 「石垣・八重山ビジターセンター(仮称)」とは…

日本列島の最南端に位置し、  
広くアジアと太平洋に面した石垣・八重山地域は、  
独自の長い歴史に裏打ちされた  
多彩な自然と文化のホットスポットです。

画一化・単純化が進む日本列島の中で、  
石垣・八重山地域に残された  
貴重な自然と文化とを後世に伝えると共に、  
その多様性と希少性を  
地域の産業振興のための資源・資本として活用し、  
地域の競争力を高めるための“機関”として  
「石垣・八重山ビジターセンター(仮称)」を構想します。

# 「ビジターセンター(仮称)」の3つの目的

Green&Clean

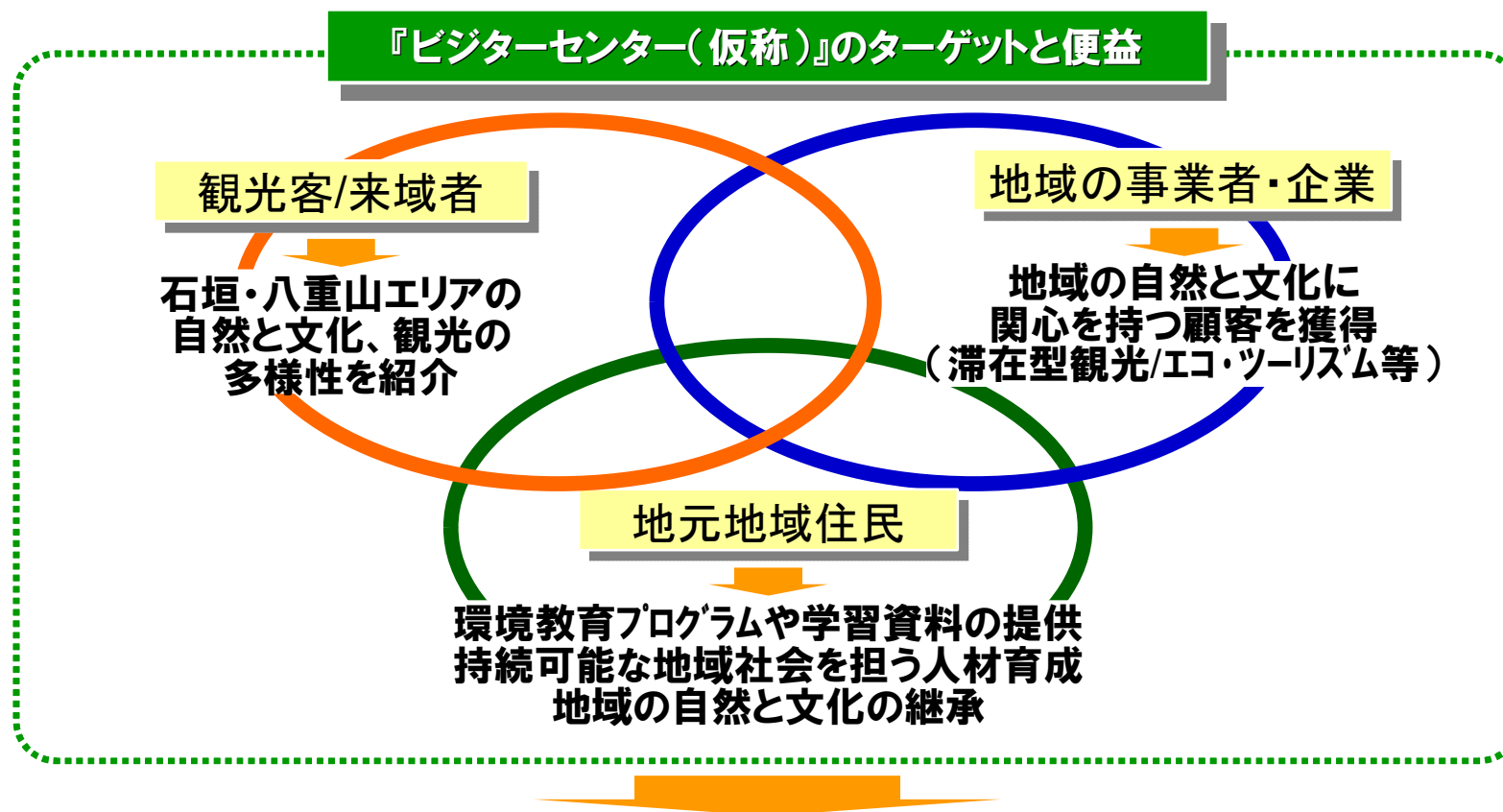
「石垣・八重山ビジターセンター(仮称)」は、  
以下の3つの実現を目的として設立&運営されます。

- ① 石垣・八重山地域の持続可能な発展の実現のための、「社会資本としての自然環境や文化」の社会的価値向上
- ② 上記社会資本(=自然環境や文化)の全面的な活用を通じた、石垣・八重山地域の産業振興
- ③ 上記①. ②. を実現し、持続可能な地域社会建設の担い手となる、新しい人材の育成

独自の自然環境と文化を、地域の社会と経済の発展のための「社会資本」と位置づけ、その健全な保全と再生・価値向上とによって地域の産業振興を達成することで、地域の自然と文化、社会と経済の持続可能性を、共に高めて行きます。

# 「ビジターセンター(仮称)」のターゲットと提供する便益

- 「石垣・八重山ビジターセンター(仮称)」は、  
①. **観光客/来域者** ②. **地域の事業者・企業** ③ **地元地域住民**  
という3つのターゲットのそれぞれに、必要な便益を提供することを通じて、  
石垣・八重山地域の自然環境や伝統文化の社会的価値を高めます。



**独自の自然環境・伝統文化の社会的価値の向上**  
(独自の自然環境や文化が、地域に「お金」を産み出す)

# 「ビジターセンター(仮称)」の3つの機能

Green&Clean

「石垣・八重山ビジターセンター(仮称)」は、  
利用者に必要な便益を提供するため、主に、以下の3つの機能を備えます。

## 博物館機能

- 石垣・八重山地域に独自の自然と文化を紹介する、コンパクトな博物館です。
- 施設内に小規模な動物園/植物園/水族館や、音楽・工芸等の体験コーナー等を設置することで、生きた資料展示を行なうと共に、利用者にとっての娯楽性も高めます。

## 観光案内所機能

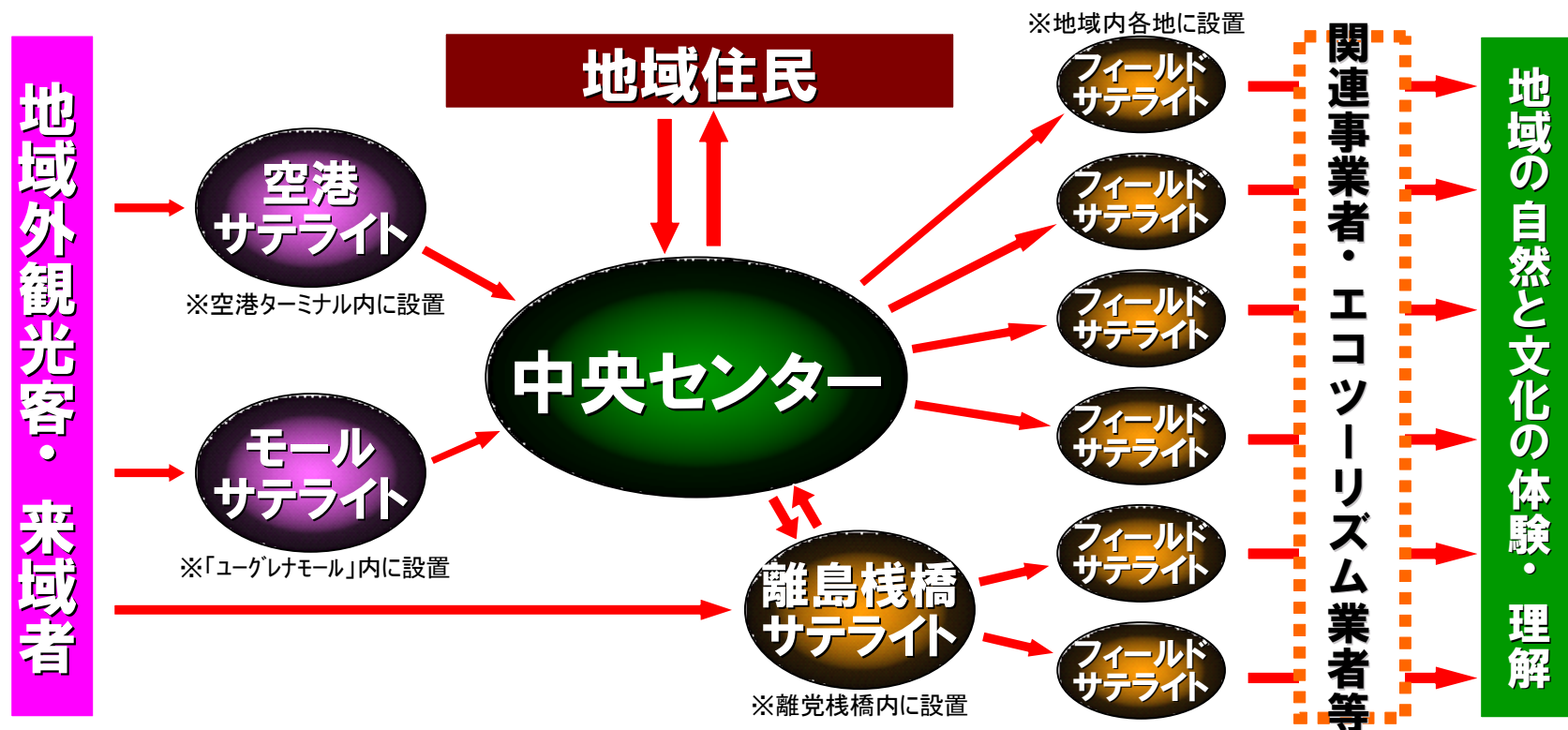
- 「ビジターセンター(仮称)」は博物館機能にとどまらず、自然文化体験などのエコツーリズムプログラムを中心とした、「観光案内所」機能も果たします。
- 衣食住の文化体験を視野に入れることで、工芸や飲食、農業・漁業など、幅広い事業者が、「ビジターセンター」の紹介対象となります。
- ただし、「ビジターセンター(仮称)」は、単なる「観光案内所」とは異なり、利用者に対して、「センター」として独自の体験プログラムも企画・提供して行きます。

## 生涯学習センター機能

- また観光客/来域者対象のプログラムのみならず、地域住民を対象とした学習プログラムを提供していくことによって、地域の生涯学習センターとしても機能します。
- かつての自然環境を知り、地域文化を体現してきた高齢者層の積極的な活用によって、若年層と高齢者との交流の場を作り、地域の文化と生活の智恵とを、未来へと継承します。

# 「ビジターセンター(仮称)」の施設展開イメージと人の流れ

- 「空港サテライト」と「モールサテライト」は、石垣・八重山を訪れた地域外の観光客・来域者に「ビジターセンター(仮称)」の機能を告知し、「中央センター」や、その他の「フィールドサテライト」等へと誘導する、エントランスとしての機能を果たします。
- 「ビジターセンター(仮称)」の利用者に提供される各種サービスは、主に、「中央センター」や、その他の「フィールドサテライト」等で、観光客 & 来域者および地域住民に提供されます。
- 各施設はICTによって結ばれ、各々のサテライトや中央センターの様子やプログラムの内容が、リアルタイムで相互発信されることで、利用者の興味・関心が、更に深まっていきます。
- また利用者は、「センター」で紹介された地域の事業者が提供するプログラムを通じて、より深く、石垣・八重山の独自の自然と文化を体験し、その価値の理解を深めることができます。



# 「ビジターセンター(仮称)」の組織イメージ

- 「ビジターセンター(仮称)」の組織は、大きく、利用者に直接対応する「フロント部門」と、施設や組織の維持・管理を行なう「バック部門」に分けて考えられます。
- 「バック部門」のうち、「飼育部門」と「展示部門」は、各々の専門分野によって更に細分化されます。またこれらの部門の構成員は、施設内で直接、利用者への対応を行なう場合があります。
- 「フロント/コミュニケーション部門」は対応する利用者別に「ツアーガイド担当」と「地域教育担当」に分かれ、それぞれの利用者に対応します。  
また、「ツアーガイド」や「地域教育担当者」を育成する「人材育成担当」も、この「フロント/コミュニケーション部門」に含まれます。
- なお、フロント/バックの横断的組織として、「自然誌」「文化誌」それぞれの研究会が組織され、それぞれのレベルアップやプログラム開発が行なわれます。

